

羽田建設さんから入居して一年経過の挨拶の手紙を受け取り、その中にはアンケート用紙も入っていました。お世話になったお礼にアンケートをと、軽い気持ちで同封されていたアンケート用紙に書き始めましたが、文面がどんどん長くなり紙面が足りない。普段から手書きをしないから誤字、脱字、当て字は多い。読み返せば文章の不自然さもどんどん出てくる始末です。

こんな事から、今回のアンケートは文書校正が楽にできるパソコンでのレポートで寄稿することにしました。

2009年10月29日午前7時48分（デジカメ写真がありました）は記念すべき上棟日、突き抜けるような青空の下、羽田社長が作業員の方とミーティングを行い、そのあと長男の挨拶、引き続き私が『羽田さんに頼んでよかった。』と言える家を造って頂きたい。」と力強く挨拶したことを今でも鮮明に覚えています。

そして2010年2月に完成、3月に二世帯住宅に入居して今月でちょうど1年1ヶ月、上棟日の挨拶のとおり不満はほとんどありません。あえて言えばトイレの水を流す時の音と浴槽にチョップリこだわり、エプロンがカーブしているタイプを採用しましたので、フタが折たたみ式となっていることから、夜遅く風呂に入る時、フタが「ガラガラ」と音がするので若干気になっている程度です。ただし風呂の施行業者は私が直接手配した業者で、また浴槽やフタはメーカーの仕様であり、羽田建設さんとは無関係であります。やはりシンプル・イズ・ザ・ベストでしょうか・・・

ここまで書いて少し思い出した事があります。それは玄関ドアのストッパーと玄関ホールの遅延スイッチを標準仕様にして欲しかった事です。

入居後、ドアストッパーと遅延スイッチは追加工事で行いましたが、特に玄関ホールのスイッチは夜間外出する時にスイッチを切ると真っ暗になってしまい履き物が見えなくなりました。これを遅延スイッチに変更したことで切っても数分間点灯しており、非常に便利な機能となりました。羽田建設さんには是非標準仕様にして頂きたいと思います。

さて、ここからは我が家の二世帯住宅の回顧録（かいころく）になりますが、思い起こせば2008年の9月頃、長男の「同居する」との言葉が始まりでした。

何回も書き直した間取り図を持って、羽田建設さんの旧事務所の隣にある社長（現会長）宅に冷やかし半分本音半分で、ブラリと相談に行ったのがきっかけでした。

家を造るには誰にでも思いやこだわりがあると思います。そして周りには多くの工務店があり毎日チラシも入ってきます。しかし何処の工務店が良く、何処の工務店が悪いなどは私の力で判断することは到底不可能です。

昔は大工さん（羽田会長も）がノミと金づちで、コツコツと柱を刻んで家を建てたので大工さんの経験や匠のワザも必要でしたが、最近はコンピューターで構造計算を行い、設計図を基にコンピューターで寸分の狂いもなく柱をプレカットするため、どこの工務店も品質に大差は無いと思います。

違ってくるのは、「①いかに施主の要望を取り入れ夢を現実に近づけてくれるか、②そして家造りの専門的な部分を施主にわかりやすく説明してくれるか、③やめた方が良い事をキッパリ「やめた方が良い」とその理由を交え助言してくれるか、④建てた後のアフターフォローをしっかりと行ってくれるか。」の違いだと思います。

ハウジングセンターやモデルハウスを訪ねますと、説明員は精一杯の笑顔で丁寧に間取りの説明や機能の説明もしてくれますが、私には決定打にはなりません。ただしデザインや間取りは大いに参考になり、妻とのモーニングコーヒーやランチを兼ねての休日の時間つぶしには持ってこいでした。

（長男はトヨタホームの考えも少しあったようです。）

実際、羽田社長からも「モデルハウスやハウジングセンターを見てきて下さい。」と言われましたが私は、最初から九分九厘羽田建設さんをお願いするつもりでおりました。それは、

- ① 地域密着をモットーとしており地元で顔の見える工務店である。
- ② チャリンコで数分、とにかく近いので思い立ったらすぐに相談できるし苦情も言える。
- ③ 会長は山奥（失礼、でも本当です！）出身で人柄が良い。
- ④ 会長夫人と妻が旧知の仲で、したがって私も羽田建設さんの内容？をある程度把握している。
- ⑤ 羽田家の亡くなった愛犬は私と散歩友達で、社長より私になついていた。（本当です。）

余談はさておき早速始まったプランの提案、2007年9月の第一回目から2009年7月の契約に至るまでには、羽田建設さんのギネスブックに載るくらいの、計14回？もの提案を受けることになってしまいました。

しかし我が家は二世帯住宅なので、一階の施主は私と妻、二階の施主は長男と嫁、計4人の施主がいるわけで、これを調整する羽田社長の役目は大変であったと思います。私達が一階の間取りの要望を伝える。長男夫婦が二階の間取りの要望を伝える。羽田社長が一階と二階のすりあわせを行うと柱の位置や壁の位置、上下の部屋の整合性や機能性がない。

このような事から壁の数十cm単位で移動や柱の位置の変更も行ったため、柱の追加も多く発生したようです。（会長が嘆いておられた？）

さらに、追い打ちをかけるように長男夫婦は二階のわずか10cmの壁の中に何か所も、「小物飾りの棚を造って欲しい。」とのキツイ要求まで出る始末、その都度、羽田社長は出来上がった設計図を（顔で笑って心で泣いて？）朱書きでこまめに修正、次回の打ち合わせ時にはしっかり要望が取り入れられていました。（商売、商売！）

また長期にわたりうるさい施主を相手に、時には会長夫人自ら何度もコーヒーを入れて頂き（旧事務所と本宅は隣り合わせだったので）親切丁寧にお相手頂いた事には本当に感謝しております。特に名古屋のショールームに何度も同行して頂いた若くて美人のスタッフさんには改めてお礼を述べたいと思います。有り難うございました。

さて、ここからは「わくわくレター」では異例の、我が家の二世帯住宅のポイントを紹介させていただきます。

<ポイント1>

何と言っても長期優良住宅の認定を受け100万円の補助金をGETしたことです。

長期優良住宅の制度を聞きましたが、「この認定をクリアするには幾つもの機能向上が条件となり建築費も数百万円の増加となります。」と聞き、さらに「国の予算枠もあり申請しても枠に入るかどうかが保証は出来ません。」とダブルパンチを浴びましたが、長男に引き継ぐ家の安全性や機能が増すのなら、よりよい家ができるならと決断し申請をお願いしました。

長期優良住宅は羽田建設さんも初めての取り組みとの事でしたが、社長から認定決定（100万円ゲット）の知らせを頂いた時には正直なところ“ほっ”としました。

<ポイント2>

様々な提案を受ける中で「どうせ造るなら良い家を造りたい！」と思い、追加費用も発生しましたが下記の機能を追加採用したことです。

- (1) 西側と南側の窓を標準仕様のペアガラスからLow-Eガラスに変更しました。以前の家は西日が強く夏暑かったためです。ただ以前の家を並べて比較することも出来ないの正直体感的には良くわかりません。
- (2) 羽田社長から提案を受け、屋根に遮熱シートを採用しました。とにかく夏暑いのは困るので少しでも和らげられるよう即決しました。
- (3) 減震パッキングによる減震工法を採用しました。これも提案を突き詰めて行く中で採択した内容

です。効果としては、①耐震性を増す、②パッキングの隙間が床下全体の換気口となる、③換気部分の土台基礎を欠かないので耐久性が増す、等の特徴があるようです。

<ポイント3>

何と言っても車と同様、便利なリモコンドアロックを採用したことです。

最近のドアは防犯上カギ穴が上下二段に付いていますが、この二カ所の施錠と解錠を行うのがとても面倒です。我が家では家族それぞれがリモコンキー（5人分）を持っていれば、玄関ドアに組み込まれた押しボタンをワンプッシュすれば施錠や解錠が簡単にできます。

荷物を持っている時や夜間の帰宅時とはとにかく便利、また電気錠もセットなので外来者の時もインターホンで確認し、キッチンからスイッチポン！で解錠できるため便利さは二倍にアップ、これは絶対お勧めです。

<ポイント4>

約2cm間隔で棚板が調整できる可動棚の採用です。

一階と二階のクローゼットや脱衣場の棚、私のワークスペースなど家中のほとんどの棚は可動式にしてあり、収納する物に合わせて棚板の高さが後からでも自由に調整できるため重宝しています。後に羽田社長からお聞きした話ですが、使ったステンレスの棚柱の本数が膨大で大工さんが泣き言を言われたとか。（商売！ 商売！）

<ポイント5>

羽田社長と練りに練った屋根裏の収納スペースです。

当初はパナソニックの天井から降ろすタイプの収納の検討を行ったのですが、途中から設計変更、天井裏に1.5間×7間の馬鹿デカイ物置スペースを造りました。さらに一階から二階、屋根裏までが連続した階段になっているので、ハシゴ段のような危険とは無縁です。

ただ、屋根裏の最終部分の階段と天井の高さが若干低かったのが残念で、羽田社長をもう少し苦しめれば解決できたのではないかと深く反省しています。

<ポイント6>

羽田建設の本宅横のモデルハウスをヒントに造った玄関横の多目的収納庫です。

エントリーモデルのドアにも関わらず玄関にフィットしており、この中には長男のゴルフバッグ、スキー板、スノーボーが収納してあり、その傍らで私達の愛車（チャリンコ）の空気入れ、妻の大事な掃除用のホウキとチリトリ、そして資源回収に出す段ボールや新聞紙の保管場所となっております。

<ポイント7>

リビングの片隅に設けた、小さいながらも私の城である1畳ほどのワークスペースです。

棚はすべて可動棚で、棚の上段3段にはパソコン関係の本やCD、その他パソコンに必要な小物が置いてあり、手を伸ばせば届く距離にあり非常に便利です。

中段の棚はテーブルになっており、私の必需品であるパソコン関係の機器が置いてあります。このワークスペースには光ケーブルが引き込んであり我が家の情報化の基となっております。ここから6カ所にインターネット回線（LAN）が張り巡らしてあります。プラズマTVもインターネット回線につながっております。ちなみにLANの配線工事はすべて自分で行いました。

<ポイント8>

羽田社長との打ち合わせを進める中で将来を考え、一階の部屋のすべてを引き戸としました。

これによって居間、リビング、和室、寝室の引き戸をすべて開ければ寝室まで一直線で行き来できます。簡単に言えば第二の廊下です。冒頭で紹介しましたとおり我が家は二世帯住宅ですが玄関と風呂は共用です。したがって廊下を通らなくても直接寝室に行ける第二の廊下は、家族と言えどもプライバシー

一を確保する事ができ、住んでから便利さがわかった間取りの成功例です。

<ポイント 9>

リビングと脱衣場に背中合わせで造った奥行き 45 cmの収納です。

間取りの設計時に脱衣場の壁とリビングの壁の間にできる 90 cmのスペースを奥行き 45 cmで二分割し収納を設けた事です。脱衣場の収納は上下に二分割した開き扉となっており中は当然可動棚です。上段は長男夫婦が使用、下段は私達が使用していますが、この収納のアイデアと便利さにも大いに満足しております。そして反対側のリビング側の収納は、帰宅時にジャケットなどを手軽にかける事ができ、寝室まで行くこともなく重宝しています。また下段には掃除機や小物も収納していますが、これは小刻みに棚の調整や取り外しが可能な可動棚の効果です。

<ポイント 10>

我が家の北側はすべて横長の「押し出し窓」を天井の高さいっぱいに合わせて設置しました。

このことからキッチンに置いた大きな食器棚や大型冷蔵庫、洗面化粧台や洗濯機の上に置いたパイプ式の棚の設置によって外からの明かりが遮断されることなく、明るさを確保することができました。また、窓が高所に付いていることから格子の枠も必要なく、防犯にも一役買っているかも知れません。

<ポイント 11>

羽田建設さんと関係はありませんが、以前の我が家で使っていた古い表札の扱いです。

この表札は「心のカレンダー」を書いておられた岐阜県ではかなり有名なS先生（故人）に書いて頂いた表札なのですが、新築した家の玄関にはマッチしませんでした。

考え抜いた末に思いついたのが表札を活用して御影石で表札を作ることでした。古い表札をスキャナーで読みと取ってパソコンの画像処理で縦書きを横に配置換え、印刷した紙を地元の外構工事屋さんを持ち込み、玄関前のブロック積み工事でこの御影石の表札を埋め込んで頂きましたが、自分では最高の出来映えと大満足しています。

<ポイント 12>

「屋根からアンテナが消えた！」でPRしている平面アンテナの採用です。

寸法は昔の洗濯板（若い方はご存じないと思いますが）くらいの高さで、南側の大屋根の下に設置しました。この平面アンテナの特徴は、屋根に乗っていないのでワイヤーで四方に引っ張って補強する必要が無く、樋や瓦が傷むことが無いばかりか、台風や大風でアンテナの方向が変わってしまったり、積雪でアンテナの素子が折れると言う心配がありません。

以上、長々と書きましたのでポイントもポイントで無くなってしまい、また失礼な部分もあったと思いますが、これが今の私の気持ちです。そしてこのレポートが「わくわくレター」の読者の皆様の今後の参考になれば幸いです。

なお羽田建設さんの仕事ぶりや、私達の計画から入居後までの記録を写真入りでブログ公開しておりますので、よろしかったら覗いて下さい。

ブログはグーグルやヤフーの検索で「回線問屋」と打ち込んで頂ければ「回線問屋の二世帯住宅」とのタイトルで出てきます。もう一方の「回線問屋・・・」も私のブログです。

また、インターネットやパソコンでお困りでしたら、羽田建設さんにご連絡下さい。「わくわくレター」の愛読者の方なら、私ができる範囲内でアドバイスさせていただきます。（当然無料です。）

長時間のお付き合い、有り難うございました。 (by 回線問屋)